

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
1	美保南小学校	6年	政田 明良（まさだ あきら）
テーマ	1. 小学校の生活について		
提案要旨	低学年も使いやすいプールを作って欲しい		
【提案内容】 低学年も使いやすいプールを作って欲しいです。 小学校によくあるプールだと低学年が泳ぎにくいから、よくあるプールの一回り小さいプールを作って使ったら、低学年も安心してプールに入れて、プールの事件や事故がなくなると思います。 実際に今年のプール開きで低学年は怖がっていた子もいて、プールに入ったらあごぐらいに浸かっていた子もいたので、危険だと思いました。 僕は安心安全と2つのポイントから作って欲しいです。			
【市長回答】 学校のプールについての提案をいただきました。低学年用の使いやすいプールを作ってほしいということでした。低学年の皆さんはまだ背が低いということで、安全安心に泳げるようにということで提案をいただきました。 低学年の皆さんが安心して水遊びや水泳を学べるように、水深の浅い補助プールというのがありますが、これは全校には設置をされていない、そういった状況があります。ご提案いただいた内容につきましては、プール自体が古くなったり、また補助プールを作る空きスペースがあるかといった、いろいろな課題もありますが、まずは現在あるプールで安心して安全に水泳をしていただける環境を整えていくということが必要ではないかと思います。 また民間のスイミングプールなどの利用に関しましては、まず学校で安全安心な水泳の授業ができないかといったことも、これから調べていく必要があると思います。まずは補助プールの設置も含めて、安全安心に水泳をしていただけるような環境を整えていかなければならないと考えています。			
【担当課回答】 《教育総務課》 安全安心なプール環境については、8月25日から12月まで、民間のスイミングプールを活用した水泳のモデル授業を3校（福部未来学園、富桑、用瀬）で行います。このモデル授業で出てきた良い点や課題を整理して、今年度末までに学校プールのあり方の基本的な考え方を定める予定です。 この基本的な考え方に基づき、民間プールの活用を検討や学校プールで引き続き、安全に楽しく授業を行うための施設の維持について、補助プールの設置も含めて、検討していきます。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
2	美保南小学校	6年	山本 りた（やまもと りた）			
テーマ	1. 小学校の生活について					
提案要旨	小学生の宿題をなくしてほしい					
【提案内容】 小中学校の宿題を減らしたいです。なぜかという、家族や友達とゆっくり過ごす時間が欲しいからです。 海外ではアメリカ、フランス、ドイツなど宿題を積極的に減らそうとしている国が多くあります。特にフィンランドでは宿題がほとんどない。しかし、国際学力調査において、常に上位を維持してきました。その理由は、学びとは詰め込みではなく、理解を深めることだと考えられていて、学校は、知識を教える場であり、家庭は自由に考えたりリラックスしたりする場所として分けられているからです。そのため学校では質の高い教育システムがあります。まず先生が全員、修士号を取得しているので、授業での指導力が非常に高く、生徒一人ひとりに合った丁寧な対応ができます。また、生徒の数も1クラスに20人程度と少なくすることによって、学習の遅れをフォローすることができます。そのような環境により生徒が授業で十分に理解することができるので、宿題に頼る必要がなくなります。 宿題がないと、家でも家族で過ごす時間が増えたり、子どもが好きなことに取り組む時間を確保できるので、子どもの自分らしさを育むことができます。それに、家庭の事情で宿題ができなくても学力が下がりにくくなります。さらに、心身の健康も大切にできます。自由な時間が多いので幸福感も高まるなど、子ども自身の成長や幸せを考えた教育システムとなります。 もっと一人ひとりが理解しやすい授業を行うことによって、宿題が少なくなるのではないかと思います。						
【市長回答】 小学生の宿題をなくしてはどうかという提案をいただきました。 アメリカやフランスやドイツでも宿題は少なくしてきているし、フィンランドではほとんどもう宿題がなくなったといったこともご紹介いただきました。また学びは詰め込みであってはいけなと、このようなこともご提言いただきました。私も全くその通りだと思います。 宿題に頼る必要がなく、一人ひとりに合った、理解していけるような授業にするべきではないかというところでもありますし、また自分自身の時間を確保することによって自分らしさを育むことができるのではないかと、ご家族と過ごす時間もしっかり確保できるのではないかと理由もいただきました。 まず、「宿題はなぜあるのかな」と、私もちょっと考えてみたんですが、やはり学校で学んだことをしっかりと身に付けていくということと、また改めて自分の力で考えることができる、自分で考える力を養っていくというような目的もあるのではないかなというふうに思います。宿題がなぜあるのかというようなことも、いろいろ考え方があってと思いますが、やはり一挙に宿題をなくしていくということは、なかなか難しいのではないかと考えます。 いろいろなことを研究をして、宿題がなくても皆さんが学びをしっかりといただけるような、そういった環境になれば宿題をなくすといったこともあり得るというふうに思っておりますが、やはり宿題の機会をうまく使って、少しずつ自分なりに学んでいただくということと、宿題を早く終わらせるような、そういった工夫もしていただくことも必要かなと思います。何か困ったことや、今回提案していただいたような「どうかな？」ということがありましたら、改めて学校の先生に相談してみてもいいかなと思います。						
【担当課回答】 《学校教育課》 フィンランドなど海外では宿題を減らす傾向にあるというお話や、「詰め込み教育ではない、個々に合った学びや、自分らしい時間を大切にすべきだ」というご意見、ありがとうございます。 宿題には、学校で学んだことを定着させ、自分の力で考える力を養うという目的があります。まずは、宿題をうまく活用して、自分なりに学ぶ工夫をしてみるのはいかがでしょうか。困ったことがあれば、先生に相談することも良い方法です。 宿題を通じて、勉強と楽しく向き合ってもらえればと思います。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
3	美保南小学校	6年	前田 篤人（まえた あつと）
テーマ	1. 小学校の生活について		
提案要旨	校庭にバスケットリングをつけて欲しい		

【提案内容】

僕は校庭にバスケットリングをつけて欲しいです。

今、国内ではバスケットの人气が高くて鳥取県では鳥取城北のバスケ部がウインターカップなどで優勝し、鳥取県でもバスケットの人气が高まっています。小学校でも気軽にバスケットをやってみようとリングに行く人もいますが、小学校約600人に対してリングは4つしかなく使えない人がほとんどです。僕は同じ鳥取市内の附属小学校の校庭にバスケットリングがあるのを見ました。同じ鳥取県でバスケットリングが校庭についているのを初めて見ました。附属小に限らず、鳥取県にある学校ならどこでもできると思います。

このことがきっかけで、校庭で遊ぶことが増えたり、いろいろなことに挑戦できることのきっかけになると思います。そしてこのことを職業で活かせるようになり、今後の日本の社会を動かす第一歩になると僕は考えています。

だから僕は校庭にバスケットリングをつけてほしいです。

【市長回答】

校庭にバスケットゴールをつけてほしいといった提案をいただきました。

小学校で600人だけでも、そこでリングが4つしかない、少ないのではないかと、そういうデータも紹介をいただいた。また、日本を動かす第一歩としてほしいと、このようなお話もいただきました。

ご提案の校庭等のリングということですが、十分な空きスペース、それから他の人に危険が及ばないようなフェンスを設置したりと、そのようなことも同時に考えていく必要があらうかと思っています。周りの人にボールが飛んでいくといったことがないような環境を作っていくということが必要であると思います。現在、体育館にもバスケットゴールがありますし、安全にプレーをしていただく環境もあるのではないかと思います。まずは、体育館屋内で楽しんでいただければと思いますし、また、布勢のヤマタスポーツパーク内には屋外のバスケットボールができる場所もありますので、そのような場所も活用していただいて、屋内屋外問わず、バスケットを楽しんでいただきたいと思います。

【担当課回答】

《教育総務課》

屋外への早急なバスケットゴール設置は困難なため、すでにお答えしたとおり、まずは、体育館でバスケットボールを安全にプレイしていただける環境を維持していきたいと考えています。

安全安心にプレイ出来るよう、ゴールの点検を3年ごとに行っているとあります。また、夏場や冬場も快適に活動できるよう体育館への空調設置の計画づくりにも取り組んでいます。

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
4	美保南小学校	6年	大川 咲姫（おおかわ さき）			
テーマ	1. 小学校の生活について					
提案要旨	体育館にエアコンをつけてほしい					
【提案内容】 体育館にエアコンをつけることを提案します。 理由は私の通っている美保南小学校の体育館にはエアコンがついていないので、水泳が始まる前と水泳が終わった9月から10月頃まで暑いし、その間に体育館を使う授業があったら暑くて長く授業ができなくなったり、熱中症になる可能性があるからです。 また、しゃんしゃんの練習に行くときに扇風機や保冷剤を持っていくのですが、体育館を使っても、動けば汗が出るし外よりも暑いなと思ったことがあるからです。 それから地域の方にも快適に使ってほしいし、少し前に津波警報で避難した人の中に熱中症になった人もいたと聞きました。なので、私はエアコンを体育館につけた方がいいと思います。						
【市長回答】 学校の体育館にエアコンをつけてほしいといったお話をいただきました。 私も体育館のエアコン空調の設置は必要であるというふうに考えています。また、津波警報で避難された方が熱中症になられたといった状況もご紹介をいただきました。 ご承知のように体育館は皆さんが学習等を行われる、そういった非常に大切な場所であり、また災害が発生した場合には、地域の皆さんの避難場所として活用をされているところです。 この度、国の方でエアコン設置のための新しい交付金の制度を作られました。鳥取市もこの国の新しい補助金を活用して、体育館など、エアコンの整備に取り組んでまいりたいと考えています。 そのために、まずは事前調査が必要になりますので、事前調査に必要な予算を、この度先般の6月議会で議員の皆さんにご審議いただいて、その予算の議決をいただきました。たくさんの体育館がありますので、一挙に対応することは、なかなか難しいですが、順次できるところからこのエアコンの設置を進めてまいりたいと考えています。						
【担当課回答】 ≪教育総務課≫ 学校体育館への空調設置については、大きな空間をどのように効率的に冷やすかといったことや、暑い夏や寒い冬を快適に過ごせるよう冷たい空気や暖かい空気が逃げないような工夫が必要になります。鳥取市内の学校体育館には、まだ空調のついた体育館はないため、今年度は、まずモデル校1校に対して、空調の種類や設置個所、冷たい空気や暖かい空気を留める施設の改修の方法について検討するため、体育館で快適に活動できる空調設置の計画を作っているところです。 来年度には、モデル校で検討した成果をもとに他学校体育館への空調設置について順次、取り組んでいく予定です。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
5	散岐小学校	6年	川口 諒花（かわぐち このは）
テーマ	1. 小学校の生活について		
提案要旨	いじめを防止するための取り組みの充実		
【提案内容】			
いじめを防止する取り組みを提案したいです。 提案の理由は全国の子ともたちがいじめに悩むことなく安心して学校生活を送ることができるようになってほしいからです。 文部科学省が出している「令和5年度児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」では、小学校から高校までのいじめの認知件数は73万2,568件で、そのうち解消したのは56万7,710件で全体の77.5%という調査結果であり、少しでもこの件数が少なくなって欲しいと思いました。 これから、いじめを防止するための取り組みを2つ紹介します。1つ目は、警察の方にいじめは絶対にしてはいけないということを、年に1、2回話してもらおうということです。警察の方に話してもらった方が、いじめは絶対にしちゃ駄目なんだということがわかってもらえると思ったからです。 2つ目は、自分たちでできる取り組みとして、相手を思いやり、「ありがとう」、「ごめんなさい」が言える関係を作ること。そのために、小さなことでも、感謝を伝えることを実践したい。みんながお互いを思いやることでできれば相手の人と仲が深まり、楽しい学校生活が送れると思います。 また別の学校では、スマイル月間などがあったり、私達の学校でも、「こんなところがよかった」などのキラリを書く学習があり、このような取り組みを増やすことで、みんなが意識して仲の良い学校が作れると思います。			
【市長回答】			
いじめを防止するための取り組みについてご提案いただきました。 全国で、いじめの認知件数が73万2,568件と、具体的な数字も紹介いただき、なかなか全てが解決されてないといった状況もあるということで、2点について具体的な提案をいただきました。 1つ目は警察の方に、いじめは絶対にしてはいけないといったことを年に1、2回話してもらおうような機会を作ったかどうかということと、それから2つ目には相手を思いやり、「ありがとう」「ごめんなさい」、そういったことが言える関係を作ることと、「いじめが駄目だ」といったことを伝える、感謝の気持ちを伝える、そのようなことを実践したらどうかというような具体的な提案をいただきました。 鳥取市の教育委員会の方でも、いじめを防止するための取り組みは大切であり、これからはもしっかり行っていくということで、皆さんが安全安心に楽しい学校生活を送っていただけるように、考えているところです。 1つ目に提案していただきました取り組み、これは「いじめは絶対にしてはいけない」ということを専門的な立場の方から話してもらおうというようなことが必要ではないかというようなことであり、警察の方にということでありましたけれども、警察の方を含めて専門家の方に、お話をさせていただくということも、とても良いことであるというふうに考えます。 また、話は聞いていただくだけでなく、皆さんがその話を聞いて、さらに自分自身でもいじめを防止するための行動をしていく、実践をしていただくということも、とても重要ではないかなと思います。 また、スマイル月間についての取り組みも、他の学校では行っておられるというようなことも紹介をいただきました。相手を思いやるといったことは、いじめを未然に防止をするということに繋がるとも大切なことです。このスマイル月間に限らず、学校の方で、お互いに相手の良さを見つけ、認めたり、人の気持ちを考えて行動するというような習慣をぜひとも皆さんに持っていていただければと思いますし、皆さん一人ひとりだけでなく学校の先生も一緒になっていじめを学校からなくしていくというような気持ちを持っていいただければ非常にありがたいなと思っています。			
【担当課回答】			
《総合教育センター》 鳥取市教育委員会も各学校も、皆さんが安全・安心で楽しい学校生活を送ることができるように、いじめを防止するための取組の充実を図ることはとても大切なことだと考えています。 1つ目の取組について、いじめは絶対にしてはいけないということを警察を含めた専門的な立場の方からお話を聞くことは、とても大事なことだと思います。みなさんで考えたい内容を先生に相談しながら、どんな専門家に話してもらったとよいかを考えるとさらに充実するかもしれません。そして、話を聞いた後に自分たちの学校ではどんな取組ができるか、自分はどんな行動をとるか等、学校全体や学年・学級等で話し合い、実践していくとさらによいと考えます。 2つ目の取組については、相手を思いやる気持ちや行為は、人と豊かにつながることであり、いじめの未然防止にもなります。鳥取市Smile月間はもちろん、日頃からお互いのよさを認めたり、人の気持ちを考えたりする取組を行ったり、続けたりするために、今後も各学校での代表委員会や委員会活動、学級会等で先生と一緒に実践していくとさらによいと考えます。 いじめをなくすために、児童の皆さんや先生方、保護者、地域の方々がつながり、一人ひとりが自分にできることを取り組んでいくことについて考え、実践していくことが大切です。そして、一緒にいじめのない安心できる学校づくりに向けて仲間とつながることができることさらに素敵なことだと考えます。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
6	美保南小学校	6年	宮本 亘（みやもと こう）
テーマ	1. 小学校の生活について		
提案要旨	ラーケーションの導入について		

【提案内容】

鳥取の小・中学校にラーケーションを導入することを提案します。

ラーケーションとは、平日に家族や保護者と一緒に校外学習を行うことを目的とした休みを取得できる制度のことです。家族と都合が合わなくても、ラーケーションを導入することで、家族との都合を合わせて旅行に行くことができたりすると思います。

僕の兄も高校生でラーケーションを使って友達と旅行に行っても楽しかったそうです。しかも平日だと休日比べて施設も混んでいないし、ホテルの料金も安いと言っていました。友達と行くのは、小中学校では無理だけど、家族で平日に旅行に行ったりすることができると思うので、ラーケーションを導入して欲しいです。

【市長回答】

ラーケーションの導入についてということで、ご提案を頂きました。

ラーケーション、これはラーニング：学ぶ、学習ということと、バケーション：休暇、これをくっつけたような造語、言葉だというふうに思います。高校生のお兄さんがラーケーションを活用されて、とても楽しかったというふうにお話をされたということもご紹介していただきました。

ラーケーションということで、これは鳥取市が今行っております、「やってみよう！でー」のような、日程が決まった取り組みではなくて、ご提案であったように、随時ご家族のいろんな予定や都合を考えて旅行等行ったり一緒にいろいろな体験活動を行われたり、といったことと思います。

一方で「やってみよう！でー」の場合は日程が決まっていることで、鳥取市として小学生、中学生の皆さんが参加をしていただけるいろいろな体験的なイベントを考えて実施することができるという良い面もあり、まずは多くの皆さんにこの「やってみよう！でー」の体験活動にも、ぜひとも参加をしていただければと思います。また、この「やってみよう！でー」はこれまでに何回か実施していますので、その結果を検証してこれからどういう形で行っていくのがいいのかということも、改めて鳥取市教育委員会の方が中心になって考えていくところでもあります。

【担当課回答】

【学校教育課】

家族が都合を合わせて休暇を取りやすいラーケーションに比べ、やってみよう！でー（day）は日程が決まっているので、家族の都合が合わないことがあります。一方で、日程が決まっていることで、多くの小中学生の皆さんが参加できる体験的イベントを企画することもできています。鳥取市は、多くの皆さんに体験的活動の機会を作りたいと考えています。子どもたちだけで参加できるイベントも企画できるよう取り組んでいますので、地域で行われる体験的活動にも、ぜひ参加してみてください。また、大人が子どもたちと触れ合う時間を作るために仕事の休みを取りやすくなるよう、商工団体にも引き続きお願いをしていく予定です。

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
7	西郷小学校 西郷小学校	6年 6年	谷口 歩積（たにくち ほづみ） 櫛谷 はな（くしたに はな）
テーマ	2. 鳥取市の子育てについて		
提案要旨	大人と子どもがふれあえる場所を作って欲しい		
【提案内容】 （谷口議員） 僕たちは大人と子どもと一緒に触れ合える場所を提案します。 お母さんは家事で忙しいし、お父さんは言い訳を言って遊んでくれない。私達は6年生でまだ子どものものでまっとうと遊んで欲しいです。大人も子どもも、スマホやタブレットを見ていて触れ合えていないので、スマホから手を離して家族と一緒に遊べる場所を作って欲しいです。例えば大きいプールや大きいスケート場を作って欲しいです。 （櫛谷議員） プールは入りながらスマホを見れないし、大人でも楽しめます。スケート場は鳥取市内にはないですが、転んだら絶対に壊れるのでスマホは使えません。大きいプールやスケート場があると大人も子どもも一緒に遊べ、大人も子どもも嬉しいし、楽しいです。 私はお母さんと工作をして楽しかったです。みんなも同じような取り組みをしたらより楽しめると思います。だから、大人と子どもと一緒に遊べる場所を作ってほしいです。			
【市長回答】 大人と子どもが触れ合える場所を作ってほしいといった提案をいただきました。お母さんは家事で忙しいし、お父さんも遊んでいただけないというような状況があるというようなことで、また、大人の方がスマホばかり見ていて触れ合えていないので、というようなことも具体的に紹介をいただきました。 今、スマートフォンが普及し、対面でいろいろ話し合ったりというような光景が少なくなったように私も感じています。スマートフォンは、いろんな情報を取得したり、いろんなことを確認したりするのに非常に便利なものですが、やはり大人と子どもで実際に一緒になっていろんなことをしたり、話し合ったり、ふれ合ったりすることの大切さは、以前と全く変わらないわけであり、そのようなことができる場所をということで提案をいただきました。具体的には家族で遊べる場を作って欲しい、例えば大きなプールとかスケート場、そういったものがいいのではないかと提案いただきました。 スマホばかり見ないで、いろいろ遊んだり喋ったりふれ合ったり、そういうことが大切ではないかということでした。私も全くその通りだというふうに思います。そういったことで、大人も子どももみんながもっと仲良くなれるのではないかとご提案かなと思います。そのようなことを感じられましたら、ご家族とか大人の方に伝えてみていただくということも、こういうことを考える1つのきっかけになるかなと思います。 また鳥取市では、地区公民館で「子どもと大人のふれあい事業」を実施しているところであり、これは、それぞれの地区公民館で工夫をされ、いろいろな取り組み、例えば工作をしたりとか縄跳びやナイトウォークとか体を動かすことや、クリスマスやお正月といったいろいろな行事にそれぞれ取り組んで行っておられます。大人の方、子どもたちが一緒になって、そういったこともやっておられますので、ぜひとも皆さんも参加をしてみてください、「どんなことをやっているのかな」とご覧になっていただければありがたいなというふうに思っております。 大きいプールとかスケート場を、なかなか一挙には少し難しいことでありますけれども、ご意見として伺っておきたいと思います。			
【担当課回答】 《こども家庭センター》 今、スマートフォンが普及して、最近是对面でいろいろ話し合ったりというような光景が少なくなったように感じています。いろんな情報を取得したりいろんなことを確認したりするのに非常に便利なものですが、スマートフォンばかり見ないでやはりいろいろ遊んだり喋ったり触れ合ったりすることはとても大切で、そういったことで大人も子どももみんながもっと仲良くなれると思います。ご家族や大人の方に伝えて一緒に考えてみてください。きっと良い答えが出てくると思います。 《生涯学習・スポーツ課》 鳥取市では、地区公民館において、「子どもと大人のふれあい事業」を実施しております。 内容は、地区公民館ごとで様々ですが、工作、なわとびやナイトウォークなど体を動かすこと、クリスマスやお正月などの季節行事など、大人の方、子どもの方が一緒にできることを実施していますので、ぜひお近くの地区公民館をご利用してみてください。また、大きなプールやスケート場の整備については、ご意見として伺いたいと思います。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
8	津ノ井小学校	6年	櫻井 紡（さくらい つむぎ）
テーマ	2. 鳥取市の子育てについて		
提案要旨	交流が生まれる施設を増やしてほしい。		
【提案内容】			
交流が生まれる施設を提案します。交流が生まれる施設というのは、地域のたくさんの人たちといろいろなきっかけて集まって自然と交流が生まれるような場所です。 私は以前、赤ちゃんのための美術展のボランティアに参加しました。そのとき、赤ちゃんだけではなく、いろいろな人がそこに集まって、お話をしたり交流をしたりしていてとても楽しかったです。 また、家の近くにコワーキングスペースがあって、私も勉強などしたいときに行きます。勉強ができるなら図書館でもいいのですが、施設では、地域の方たちとお話したり、新しい体験ができるので、私にとって大好きな場所です。美術展も、コワーキングスペースも絵を見たり、勉強したりするだけでなく、地域の人と交流ができる場になっています。このような場が増えるともっと楽しくなるんじゃないかなと思います。 私が提案する施設には3つのスペースがありますが、仕切りがないのでスペースとスペースの間で交流が生まれます。例えば子どもが過ごせる「キッズスペース」、お兄さんお姉さんが勉強できる「勉強スペース」、いろいろな方を体験できる「交流スペース」です。これらのスペースは、分けられていないので、行ったり来たりすることができます。 勉強に来たお兄さんやお姉さんが勉強に疲れたら、キッズスペースで遊んで、その間、お父さんやお母さんが勉強スペースで本を読んだりすることもできると思います。また、子どもたちがお年寄りの方とお話できるかもしれません。おじいさん、おばあさんなど、家に一日中おられる方もいらっしゃると思います。子どもや施設にいる人と話す方が健康にも良いと思いました。こういった交流が生まれるような施設を提案します。			
【市長回答】			
交流が生まれる施設を作って欲しいといった提案をいただきました。また赤ちゃんのボランティアにも参加をされたということも紹介いただきました。地域の方と交流できる、そのようなスペース、例えばキッズスペース、勉強スペース、交流スペース、そのようなスペースを持つ施設を作ることによって新しい交流が生まれるのではないかと、このようなお話でありました。 新しいものを作るということも、1つの考え方ですが、鳥取市にもいろんな施設があります。例えば、市民体育館エネトピアアリーナではいろいろなスペースがあります。例えば、天候に左右されずに使えるフットサル場、またスケートボード場、それからボルダリングができるところや、キッズスペース、子どもたちが遊べるようなスペースもあります。市内でそういう遊べるふれあいができるような施設というのは、いろいろありますので、また皆さんでも探してみてくださいねと思います。 また、小さいお子さんの場合は児童館とかもありますし、それから駅南の庁舎2階には中央図書館があり、勉強などができる学習コーナーも設けております。あまり広くないのですが、ここには48席あります。夏休み期間中にも利用していただけるんじゃないかなと思っています。学習スペースとして、また閲覧をしていただけるような場所としてこの図書館などもうまく活用していただける場所になるのではないかなと思っています。			
【担当課回答】			
＜生涯学習・スポーツ課＞ 鳥取市民体育館エネトピアアリーナには、1階の吹き抜け空間を使った天候に左右されないで利用できるフットサル場やスケートボード場があります。施設の中には、ボルダリングやキッズスペースがあり小学生の方もご利用いただけます。さらに、民間施設にも水泳などで体を動かせるところもありますので、市内の色々な施設をご活用ください。 また、様々な方の交流という観点で言うと、鳥取市文化センターでは、ミニアートギャラリーをはじめとした作品展の企画ほか、こども科学館やファブラボとったりなど体験ができる施設もあります。そして鳥取市文化センターにはキッズルームもありますので保護者さんも安心して、ご利用いただけます。			
＜幼児保育課＞ 本市には乳幼児の親子から18歳未満までの方が自由にご利用いただける公共施設として児童館があります。児童館には学習スペースや本棚、屋内外で体を動かせるフリースペースやグラウンドなどを完備しています。児童館職員も常駐していますので、学習や交流の場として安心してご利用いただけます。			
＜中央図書館＞ 鳥取市役所の駅南庁舎2階にある中央図書館には、勉強やレポート作成などができる「学習コーナー」が48席あります。夏休み期間中は、利用者が通常時より多くなるため、小学生には児童図書室の閲覧コーナーを開放しています。また、用瀬図書館にも学習スペースとして、「資料閲覧コーナー」があり、6席あります。大人用が3席、子ども用が3席となっています。ぜひ、ご利用ください。			
＜協働推進課＞ 地区公民館は、鳥取市内に60館と分館1館があり、いろんな世代の人に利用していただいています。放課後には子ども達にロビー、談話室、図書室や、その時に空いている部屋を開放して、学習や遊びの場として提供しています。現在、もっと快適に地区公民館を利用していただける居場所づくりを検討しているところです。また、いろんな年代の人が交流できるイベントなども開催していますので、ぜひ利用してみてください。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
9	散岐小学校	6年	下田 桃（しもだ もも）
テーマ	3. 鳥取市の防災について		
提案要旨	防災バックの寄付について		
【提案内容】 防災バックの寄付について提案します。 なぜかという、災害のニュースを見て、防災バックを準備している家庭が少ないのではと感じたからです。実際に自分の地域で聞いてみると、お年寄りが多いため、防災バックを用意している人が少なかった。全国的にインターネットで防災バックを備えている家の数を調べてみると、ほとんど用意していないと答えた人が26%、全く準備していないと答えた人が32%でした。 いざというときに準備をしていないと、災害が起こった際に明かりがない場所で逃げ遅れたり、飲み水や食料に困ってしまいます。そのため、日頃から飲料水や懐中電灯などを入れた防災バックの用意や点検をすると良いと思います。それでも防災バックの準備が難しい家庭やひとり暮らしをしている方、お年寄りが住んでいる家については、みんなが安全に安心して暮らせるために、防災バックの寄付を検討して欲しいと思います。 そのため私は防災バックに入れると良いものをまとめてみました。入れると良いものは、飲料水、食料、救急セット、軍手、懐中電灯、衛生用品です。軍手に関しては、避難時などに使います。懐中電灯に関しては、避難所に明かりがなかった場合に使えます。このようなものを入れることで身を守ることができると思います。			
【市長回答】 防災バックの寄付についての提案をいただきました。 水や食料や軍手、また懐中電灯等々入れた、そういったものの用意をしておく必要があると考え、ニュースなどを見るとこの防災バックの準備をしておられる家庭がまだまだ少ないのではないかと感じたということもご紹介をいただきました。 具体的には、防災バックを備えている家の数を調べてみると用意していないと答えた方が26%、全く準備していない方が32%と、こういったことも紹介がありました。また、一人暮らしのご家庭や、お年寄りのご家庭等では、こういったこともより重要ではないかということもふれていただきました。 全国各地で災害が発生していますが、やはり備えをきちっとしていただいている方がまだまだ少ないのではないかなというふうに、私も感じています。「自分は大丈夫だろう」と誰しもついつい考えてしまいがちですが、やはり普段からいろいろな準備をしておく、備えておくというようなことが、ひとたび災害が発生したときに被害を最小限に食い止める止めることに繋がるというふうに思っています。 非常に大切なことであり、素晴らしい提案をいただいたというふうに思います。災害が発生したときにすぐ、防災バックを持って避難をしていただくということは重要でありますし、また鳥取市でも最低3日間過ごすことができる水や食料、日用品等々、備蓄品の準備をしています。ただ、それは数も限られているものであり、備蓄している場所も十分ではないかもしれませんので、やはりご自分で最低限必要なもの、水、食料、懐中電灯、軍手、そういったものを備えて、いつ何どき災害が発生しても、そういったものを持って避難できるようご準備いただくことは、これからお願いをしていきたいと思います。			
【担当課回答】 《危機管理課》 民間の調査ですが、災害の増加を心配する人が9割以上いるのに、実際に防災対策をしている人は4割しかないという調査もあります。これは、自分だけは大丈夫という「正常性バイアス」という気持ちになってしまうためのです。 まずは、災害を自分のこととして考えていただくことが一番重要で、それが防災の取り組みのスタートとなりますので、今後もVRなどの最新機器も使いながら、様々な方法で市民の皆さんに防災の呼びかけをしていきたいと思っています。 そして、ご提案いただいたように、普段から災害に備えて防災バックなどを準備しておくことも大切です。鳥取市でも、災害時にすぐ持ち出せる防災バックの準備と、最低3日間過ごせるような水、食料、日用品などの備蓄品の準備を、市民の皆さんにお願いしているところです。また、FM鳥取で毎日放送している防災メモでも、非常持出品についてどのように備えると良いかを9月からお知らせすることとしています。 ただ、心配されるとおり、様々な事情で防災バックなどの準備ができなかったり、持ち出せなかったりするような場合もあると思います。そのような場合も市民の皆さんに安心して避難していただけるよう、避難所にも避難生活に最低限必要な物品を整えていきたいと考えています。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
10	佐治小学校 佐治小学校	6年 5年	長谷 一樹（はせ いつき） 山田 勘太（やまだ かんた）
テーマ	3. 鳥取市の防災について		
提案要旨	ぼくたちの台風被害の経験から感じたこと		
【提案内容】			
（長谷議員） 災害のことについて発表します。僕たちの住んでいる佐治町は一昨年、台風7号により大きな被害を受けました。そのときには、鳥取市の皆さんからもたくさん助けていただき、ありがとうございました。僕たちはそのときの経験から二つ提案をします。 （山田議員） 1つ目は、安全に友達に会える場所を確保してほしい。災害が起きて学校も被害を受け、校舎が使えなくなり休校になりました。しばらくは友達に会えなくなってしまうと思いますが、児童クラブが開かれたおかげで友達に会えて嬉しかったし、安心することができました。しかし児童クラブがある建物のすぐ近くの道路が崩れ落ちていて少し怖かったので、何か災害の被害を受けても安全に学校や児童クラブを開けるような場所を確保してほしいです。例えば、佐治町の人権福祉センターや用瀬町の町民会館など、下流の被害がない公共施設を借りて臨時の学校や児童クラブを開けるようにするなどです。そのようなことができれば、安全な場所で安心して友達に会えるし学習もしやすくなると思います。 （長谷議員） 2つ目は、迂回路の整備もしてほしいです。台風の被害で、普段通る道路が通れず、迂回路を通りました。しかしそこにも土砂が流れ込んでいたりガードレールがないところがあったりして、ドキドキしました。また佐治町では大雪の影響で大きな道が通れなくなったことがありました。そのときには、迂回路も大雪の影響で通れなかったです。大きな道が1本しかない佐治町にとって、その道が通れなくなことは、町が孤立してしまうことに繋がります。町が孤立することを防ぎ、生活に必要なものを確保したり、救急車などの緊急車両を通れるようにするためにも、迂回路を安全に取れるようにして欲しいです。具体的には、街灯やガードレール、土砂崩れ防止のフェンスが欲しいです。また、一番は道路が壊れないことだと思うので、本道の強化をして欲しい。そうすれば、万が一災害が起きても安心して暮らすことができると思います。 （山田議員） 災害はいつどこで起こるかわかりません。しかし、経験したことから対策や工夫を考えることができます。これらを重ねていくことで、少しでも安心できる生活に繋がると僕たちは思います。 （長谷議員） ご検討よろしくお願いします。			
【市長回答】			
一昨年の8月15日台風第7号のときの経験も踏まえてご提案をいただきました。安全安心に友達等と会えるような場所を確保しておくべきではないかと。学校や児童クラブ等が災害にあって使えなくなった場合には安全な下流域の方の公共施設等も活用するというようなことも考えたかどうかというようなご提案もいただきました。 また2つ目の提案として、迂回路の整備ということで、救急車などの緊急車両が通れるようにして、フェンスなども強化して、そして道路そのものをもっと強化すべきではないかというようなご提案もいただきました。全くその通りであると思います。普段から対策を講じて備えをしていく、避難経路を自分で確かめておく、そのようなことはとても重要なことです。 一昨年の8月15日の台風第7号の襲来時は、最長では48時間、2日間で515ミリという大変な雨が降りました。これは普通の年の8月の1ヶ月分に降る雨の量の3倍の量、それが2日間で降ったということで、大変想像できないような降り方をして大きな被害が発生しました。 8月15日は16時40分到大雨特別警報が発令され、鳥取市も警戒レベル5を発令し、多くの皆さんに避難行動をとっていただきました。人命に係る直接的な被害はなかったということですが、橋が二つ落下をしたり、道路、下水道、上水道が寸断されたりということ、地域の皆様は大変な思いをされたというふうに思っているところです。まだまだ十分に復興・復旧ができていない部分もありますが、全力で、できる限り早く復旧・復興ができるように取り組んでいるところです。災害は今後も、いつ何とき発生するかわかりません。そのために道路、上下水道等しっかり強化をしていく、強いものにしていくということも重要なことであると考えています。 国の方でも、この国土強靱化の実施中期計画というのを今年決められて、これから国は20兆円ほどの予算を確保し、防災減災の取り組みを進めていくということであり、鳥取市もこういった国の事業も活用しながら、インフラ整備、上下水道や道路など、しっかりと整備をしていきたいとこのように考えています。 また鳥取市では防災アプリを導入しており、アプリには、自分自身で一人おひとりに合った避難計画を作れるような機能もあります。こういったものも、皆様に活用していただけたらと思います。これから市民の皆様のお安全安心をしっかりと守っていくということに、鳥取市はしっかり取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。			
【担当課回答】			
《危機管理課》 令和5年8月の台風第7号の時には大変怖い思いをされたことと思います。鳥取市では、「総合防災マップ」や「鳥取市防災アプリ」などに台風などの水害の時に地域の危険な場所を表示し、普段から確認できるようにしています。これらを使って、児童クラブや通学路の危険な場所を確認してもらうと災害の時に慌てなくて良いと思います。また、防災アプリでは、自分だけの避難計画を作る機能もあるので、是非使ってみてください。「災害は忘れたころにやってくる」といいます。台風7号の時に感じられた怖さを忘れず、これからもご家族や学校で災害に備えてください。 《学校教育課》 学校や放課後児童クラブは、児童生徒のみなさんの安全を第一に考えています。このため、災害時には、通常通りに運営することができないことがあります。オンライン授業や学校の代わりに使用できる施設を検討するなどして、児童生徒のみなさんに安全・安心に過ごしていただけるよう取り組んでいます。 《都市企画課》 台風第7号の時には、国道、県道、市道のいたるところが被害を受け、町内が一時孤立状態となりました。また、令和5年1月の大雪の時には、国道482号の加瀬木から森坪の間で大量の倒木による通行止めが発生し、同じように一時孤立状態となりました。このことを受け、鳥取県では国道482号の加瀬木から森坪の間で道路を広くする工事や、町内の主要な県道を改良する工事を進め、災害に強い道路づくりを行うこととしています。また、鳥取市では、道路沿いの危険な木を事前に伐採し、災害時の倒木等を防ぐ取り組みを令和5年度から始めています。 これらの取り組みを順次行うことで、災害があっても安心して通行できる道路を確保するとともに、早く道路工事を進めてもらえるよう引き続き鳥取県に要望していきます。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
11	美保南小学校	6年	久守 奏斗（ひさもり かなと）			
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて					
提案要旨	公園のボール遊びについて					
【提案内容】 美保南小学校の地区の公園ではボール遊びが禁止されています。公園での遊びなどをどうすればいいかと考えた経験があります。（ボール遊びをするには）公園の広さも関係することを考えて、全部のボール遊びではなく、公園の中に収まるボール遊びに限定するなどの条件をつけた公園を作って欲しいです。 それでもボール遊びだからフェンスを越えちゃうこともゼロではないから、そこはフェンスではなくネットに変えて欲しいです。そうしたら公園から出るボール遊びもなくなって、地域の人たちも安心するからいいと思います。						
【市長回答】 公園のボール遊びということで公園の中でスペースを作って、ボール遊びが安心してできるようなところを作ってほしい、フェンスでなくてネットでボールが外に出ていかないようにというご提案でした。 公園は市内にいくつかありますが、なかなか広さが十分でなくて、ボール遊び等に適していない公園もあり、また、小さなお子さんやお年寄りの方が利用されるということで、そこで安全にボール遊びをしていただくことがなかなか難しい公園もあるかと思いますが、いくつかの公園はある程度の広さがあって、ボール遊び等もできるところがあるので、できる限りそういったところを選んでいただくということと、また、周りの方との調和をとって、安全安心に遊んでいただけるようお願いしたいとも思います。鳥取市として、ボール遊びができる公園をさらにたくさん作っていくことは、今のところ難しいですが、公園を皆さんが安全に利用していただくことはとても重要なことでありますし、必要なところはフェンスとかネットの設置など進めていきたいと思います。						
【担当課回答】 ≪河川公園課≫ 公園は市内にいくつかありますけれども、なかなか広さが十分でなくてボール遊び等に適していない、そのような公園もありますし、また、小さなお子さん、お年寄りの方なども利用されるということで、そこで安全にボール遊びしていただくということが難しい公園もあります。反対にいくつかの公園は、ある程度の広さがあって、ボール遊び等もできるところがあります。できる限りそういったところを選んでいただき、周りの方との調和をとりながら、安全安心に遊んでいただけるようお願いしたいと思います。鳥取市としてさらにボール遊びができる広い公園をたくさん作っていくというようなことは、今のところ難しいですが、皆さんが安全に利用していただけるよう、必要なところはフェンスやネットなどの設置を進めていきたいと思います。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
12	美保南小学校 美保南小学校 美保南小学校 美保南小学校 美保南小学校	6年 6年 6年 6年 6年	小坂悠人（こさか ゆうと） 小島優太郎（こじまゆうたろう） 尾崎璃香（おさき りいち） 坂本健真（さかもと けんしん） 高森雄大（たかもり ゆうだい）
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	子どもから大人まで楽しめる施設が欲しい		
【提案内容】 （小坂悠人議員） 子どもから大人まで遊べる大きい施設が欲しい。最近の子どもたちは屋内で遊ぶ人が多い。さっきの話し合いでも屋内で遊ぶ人が半分以上います。ラウンドワンのような大きい施設が欲しいです。（そういった施設を利用することは）健康の面にもいいと思います。 （小島優太郎議員） 子どもから大人まで遊べる施設を作って欲しい。最近はニュースなどでも見ることが多いですが、他の県には遊び場など楽しい施設がたくさんあります。（鳥取では、）せっかく外に遊びに出て、家の近くで遊んだり、むしろ県外に出て遊ぶことが多いです。実際に僕は最近、家の近くで遊んだ思い出よりも、県外などに出かけた思い出の方が多いです。鳥取市内で他県に負けないような施設を作って欲しいです。例えば、鳥取県で有名な「因幡の白兔」をモチーフにしたサメの背中を飛び乗っていくアスレチックや「ゲゲゲの鬼太郎」のおばけが出てくるおばけ屋敷などを作って欲しいです。 （尾崎璃香議員） 子どもから大人まで遊べる施設が欲しいです。他の県にあって鳥取市にはないものがたくさんあります。例えば、水族館や動物園、遊園地などです。そこで、他の県にはなくて鳥取市にだけある、そんな施設を作って欲しいです。具体的には鳥取市の魅力である砂丘やコナンなどを利用した新しい施設を作って欲しいと思います。 （坂本健真議員） 僕はみんなで楽しめる施設が鳥取に無いのが残念です。だからこそ、施設内に100人以上入っても、十分に楽しめるような水族館や遊園地などの娯楽施設を建てて欲しいです。そして、その施設を建てることによって観光客が増え、また、税収も増加し、他のことにも取り組めるようになると思います。だからみんなで楽しめる施設を建てて欲しいです。 （高森雄大議員） 子どもから大人までが遊べる施設を作って欲しいです。鳥取には遊園地や動物園などが少なく、他の県には多くあります。そのことから他の県の方が、観光客も増えていると思います。鳥取の魅力を使って施設を作れば、旅行や観光に来る人も増えて、鳥取のためにもなります。そのお金で鳥取市を良くしていくこともできると思うので、施設を作って欲しいです。もう1つの理由は、そのような施設が鳥取市にあると（地元の人も）行きやすく、「家にいてずっとゲームをしている人」が増えている今、外で遊ぶことで病気などにならず元気にいられると思います。こういった理由からこのような施設を作って欲しいです。			
【市長回答】 美保南小学校の5名の議員の皆さんから、共同で、子どもから大人まで楽しめる施設を作ってほしいというような提案をいただきました。県外にはたくさんそういった施設があるけども、県外に負けないような施設が必要ではないかと、水族館とか動物園とか遊園地、砂丘やコナン、鳥取ならではの施設も必要ではないかということでした。観光客の皆さんがたくさん鳥取市にお越しいただくと税収が増えるといったメリットもあり、また外で遊ぶということで元気になるというようなこともご紹介をいただきました。 子どもから大人まで楽しめる施設で、鳥取市を「もっと楽しいまち」、「わくわくするようなまち」にしていくということのご提案でした。実際にそういった施設を作るとなると、いろいろなことを研究していく必要があらうかと思います。鳥取市が直接作るのか、あるいは民間の事業者の皆様に取り組んでいただくのか、いろいろな選択肢がありますが、今後の研究の課題にさせていただきますと思います。 鳥取駅の周辺を新しくして、もっとみんなで集まって「楽しいな」とか、「わくわくする」など、そのような空間スペースにしていこうというような取り組みをまさに今進めていこうとしているところであり、この取り組みがもう少し具体的なものになりますと、皆さんに内容をお示しして、「いいな」と感じていただけるのではないかなと思っています。シネマコンプレックスなども事業者の皆さんに関心を持っていただいており、駅周辺のリニューアルをさらに進めていきたいというふうに思っています。 ご存知かも知れませんが、鳥取にも、「鳥取砂丘のこどもの国」、「とっとり賀露かっこ館」、また「わらべ館」等々、いろんな施設がありますので、ぜひ現在ある施設についてもご利用いただければと思います。			
【担当課回答】 《政策企画課》 みなさんの「遊園地や動物園、水族館など、子どもから大人まで遊べる施設をつくってほしい」という提案は、鳥取市をもっと楽しく、ワクワクするまちにするための大切なアイデアです。大きな施設をつくるには、長く続けられるかを考えることや、お金や働く人など、たくさんの準備が必要です。市がつくる方法や民間の会社といっしょに進める方法など、いくつかのやり方があります。今後の宿題として考えさせてもらおうと思います。 現在、鳥取駅周辺を新しくして、市民のみなさんがワクワクする場所にしていこうと取組を進めています。いろいろな会社の方とお話をしており、その中には大きな映画館（シネマコンプレックス）の出店に関心をもつ会社もあります。鳥取駅周辺のワクワクする取組の詳しいことが決まってきたら、皆さんにもお知らせしていきます。 また、市内には「鳥取砂丘こどもの国」や「とっとり賀露かっこ館」、童謡・唱歌とおもちゃのミュージアム「わらべ館」など、さまざまな施設がありますので、ぜひ今ある施設も利用していただき、その魅力を知ってもらえたらと思います。 《観光・ジオパーク推進課》 観光を楽しむ上において、その場所に来なければ見られない景色や、できない体験、味わえない「食」があることが重要であると考えています。本市の鳥取砂丘や白兔海岸、多鯉ヶ池などには、海水浴やサンドボード、ファットバイク、カヌーなど都会とは違ったワクワクを感じられる鳥取ならではの自然体験メニューがたくさん用意されており、大変人気もあります。また、砂像を展示する『砂の美術館』は世界で唯一の施設として有名で、毎年多くの観光客に利用してもらっています。これからも鳥取の良さを活かし選んでもらえる観光地であり続けられるよう、みなさんの意見を参考に創意と工夫を重ねていきたいと思っています。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
13	美保南小学校 美保南小学校	6年 6年	上田 穂花（うへだ ほのか） 今田 深月（いまだ みづき）			
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて					
提案要旨	広い公園を増やしてほしい 公園の遊具を増やしてほしい					
【提案内容】 （上田穂花議員） 私は広い公園を増やすということを提案します。私は美保南地区に住んでいますが、美保南地区には引っ越してくる人がたくさんいます。そのため、美保南地区で生活する人がどんどん増えていますが、公園が狭くて遊びにくいと感じたことがあります。もっと広いと、鬼ごっこやボール遊びを楽しくできます。そして公園は、避難場所になることもあるので、今の公園の数では少ないと思いました。 （今田深月議員） 私は公園の遊具の数を増やすという提案をします。なぜかというといつ子どもでも高齢者でもいろいろな人に公園の楽しさを知って欲しく、今の公園だと同じような遊具がどこの公園にもあるため他の遊具が欲しいと感じたこともあるからです。それに今の公園には滑り台が1つしかなく、多くの人が滑り台を使おうとすると危険だとも思ったからです。私も実際に他の人から押されて滑り台から落ちた経験があります。いろんな人が楽しんだり安全に利用したりできるように公園の遊具を増やしてください。						
【市長回答】 公園を増やして欲しいというご提案でした。特に美保南地区には、引っ越してこられる方が多くて、もっと公園を増やすべきではないかと。それから公園の遊具も増やして欲しい、滑り台が一つしかないということで、以前に押されてちょっと危なかったというようなこともご紹介いただきました。 現在、鳥取市には都市公園というものが144ヶ所あります。新しく住宅等ができるようなところには、宅地造成と併せて、その場所に新しく公園を作るというふうにしています。また、今ある公園でも遊具を直したり、また使いやすくなるようにリニューアルをしたりしているところです。 公園をさらにこれから増やしていくというのは、場所の確保の必要であったり費用も相当かかるため、なかなか一挙には難しいわけでありましてけれども、現在ある公園について、もっと遊んでいただけるような、楽しんでいただけるような工夫を、これからも行っていく必要があると思っております。						
【担当課回答】 ＜河川公園課＞ 現在、美保南地区には、都市公園が「宮長いなば公園」と「新的場公園」の2箇所、また、宅地造成とあわせて新しく作った広場（公共空地）が24箇所あります。 遊具は安全に使えるか定期的に調査しており、古くなったり壊れたりした遊具から順番に新しくするよう取り組んでいます。 なお、遊具などの公園施設を新しく更新する際には、地元町内会などの公園利用者のみなさんご意見等を参考に、施設を利用しやすくする工夫をしていきたいと考えています。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
14	日進小学校	6年	園田 礼人（そのだ らいと）			
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて					
提案要旨	外国人観光客を増やすまちづくり					
【提案内容】 僕は外国人観光客を増やして欲しいです。鳥取市に外国人観光客が増え、鳥取市でお金を使ってもらえば鳥取市が豊かになると思います。鳥取市には砂丘やコナン空港といった外国人に来てもらうのにいいところがあります。だから僕は外国人観光客にもっと来てもらいたいです。 外国人に来てもらうために、空き家を外国人向けのスポットにする、アニメ、名産品、また仁風閣などの歴史を使った場所を作ることや、外国人向けのCM広告を発信するという方法がいいと思います。 このようなことをすると、外国人が来て、鳥取市でお金を使ってもらえるようになると思います。						
【市長回答】 外国人観光客を増やす取り組みをしてはどうかというようなご提案をいただきました。 外国人観光客の皆さんにお金を使ってもらったら、鳥取市はもっと税金が増えて豊かになるということで、例えば、今増えている空き家を活用してみたらどうかとか、それから外国の方向けのCMを発信したらどうかといったご提案もいただきました。 鳥取市も今、新型コロナウイルス感染症が収束しコロナ禍前の状況に戻ってきています。外国人観光客の方は、むしろ以前よりも増えてきているといった状況もあり、もっともっとたくさんの方に来ていただけるように、外国語の観光パンフレットやホームページなどでの情報発信に取り組んでいるところです。 今後も多くの外国人観光客の皆さんに、この鳥取を選んでいただいて、お越しいただけるように情報発信を行ってまいります。						
【担当課回答】 《観光・ジオパーク推進課》 本市では、外国人観光客を増やすため外国語の観光パンフレットやホームページなどで海外向けに情報発信を行ったり、台湾などで人気のユーチューバーなどを鳥取へ招き、人気のグルメスポット情報などを発信してもらっています。今後も多くの外国人観光客に訪れていただけるよう、魅力的な情報発信を行っていきます。 また、情報発信だけではなく、久松公園では鳥取城の石垣をライトアップしたり、街なかのアーケードで麒麟獅子やしゃんしゃん傘をデザインした影絵をシャッターに映し出すなどして、夜間に鳥取のまちを多くの人に楽しんでいただける工夫も行っているところです。 《文化交流課》 外国人観光客が増え、お金を使ってもらうことで、鳥取市が豊かになる。大変素晴らしい提案だと思います。鳥取市では、麒麟のまち圏域である1市6町（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、香美町、新温泉町）で、日本遺産「麒麟のまち」の取組として、この1市6町の魅力を高めて、外国人を含む観光客を増やす方法を色々考えているところです。今年度（令和7年度）は、名産品を活用した「食」と「旅行商品」をテーマに開発を進めているところで、この取組が完成した後はしっかりとPRをしていきたいと考えています。たくさんの外国人観光客に鳥取市を知ってもらおう。観光してもらおう。楽しんでもらおう。それによって鳥取市が豊かになっていけるよう取組を進めていきます。この度は大変素晴らしい提案をいただきありがとうございました。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名			
15	日進小学校	6年	横山 徳将（よこやま のりそう）			
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて					
提案要旨	誰もが住みやすいまちづくり					
【提案内容】 誰もが住みやすいまちづくりを提案します。 鳥取県の人口は53万人で、全国で最も人口が少ない都道府県です。人口が少ないと国からもらえる税金が減り、まちのサービスや活動に使えるお金が少なくなってきます。 そこで、高齢者の方、仕事がなくなって困っている人や、都会で生活しにくい人などを鳥取に招待し、住んでもらいます。特に高齢者の方に積極的にIターンUターンをしてもらったほうがより良いと思います。そして定年退職で都会であった仕事ができなくなった人が、田舎でゆっくり過ごしてもらうことができると思ったからです。そして人口が増えたら、国からもらえる税金が増え、また、その人たちが仕事に就けることで、鳥取市のためになります。 そこで今、鳥取に多くある空き家を安いお金で改築し、そこで気の合う人とシェアハウスをして暮らせるようにします。それで、徐々に賃金を上げて、より自立した生活を送れるようにします。移住した人も家と仕事をもらえて、鳥取市ももらえる税金が増えて、誰もが住みやすいまちになると思います。 あと、先ほど提案のあった災害のことも、この税金が増えたら、道（道路）の強化とかもできるからいいと思います。						
【市長回答】 誰もが住みやすいまちづくりということでご提案をいただきました。 例えば高齢者の方、定年退職された方等に鳥取に移住をしていただいたら人口も増えるというようなことで税収も増えると、その増えた税収で道路の強化も行えるのではないかとこのようなことも提案いただきました。また空き家を改築してシェアハウスを作ったらどうかとこういったこともご提案いただきました。 鳥取市では全国に先駆けて平成18年、約20年前からこの移住定住の促進に取り組んでいるところです。市外県外からたくさんの方に鳥取市にお越しただいて住んでいただけるように、東京の方に出向いて相談会を行ったり、SNSを活用して鳥取市の魅力やいいところの発信をしたり、また、いろいろな支援制度も作ったりしています。鳥取市へ過去3年間に移住していただいた方の人数は、令和4年度が446人、令和5年度が471人、昨年、令和6年度が昨年度508人と着実に増加をしているところであり、多くの方に鳥取市を選んでいただいていると思っています。 さらに鳥取市の魅力を発信して、多くの皆さんに鳥取市に移住していただけるような取り組みを、これからもしっかりと進めてまいりたいと考えています。						
【担当課回答】 《地域振興課》 鳥取市に移住先に考えてもらえるよう東京や大阪などの大都市に出向いて相談会を行ったり、SNSを活用して鳥取市のいいところを発信して、さらに移住者が増えるよう今後も取り組みを続けていきます。						

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
16	美保南小学校	6年	阪本晃太郎（さかもと こうたろう）
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	体育館や運動場の暑さ対策について		
【提案内容】 最近ニュースなどで熱中症についてのことが多く見られます。また熱中症は、人が亡くなることもあるためとても危険です。なので僕は熱中症の対策について提案します。 体育館ではスポーツ中の熱中症や避難者の熱中症があります。せっかく避難したのにそこで熱中症、そして体調不良になっては意味がありません。だから体育館にエアコンを付けて欲しいです。 次に運動場でもスポーツ中の熱中症があります。また運動場に避難したときに熱中症になるので、運動場にも涼めるところを作って欲しいと思います。 熱くて外に出れず、夏休みの思い出がすべて家の中だったら何か物足りないような気持ちになります。この熱中症の問題は国でも取り組んでいます。鳥取市や鳥取市の学校でも取り組んでいただければと思います。			
【市長回答】 今、この暑さの関係で熱中症が発生しているので、体育館にエアコンを設置してはどうかというようなご提案でした。先ほど少しお答えをいたしました。体育館は小学生の皆さんが学習をされたり、日常を過ごす非常に大切な場でありますけども、最近のものすごい暑い日が続いておりますので、体育館にも空調設備は必要と考えております。 しかしながら体育館は、天井も高く、建物も大きいということもあり、エアコンを設置するというのは、一挙にはなかなか難しい面がありますけれども、先ほどもご紹介させていただきましたように、国の方で新しい支援制度もできましたので、そういった制度もうまく活用しながら、順次、鳥取市の小学校の体育館の空調整備を進めてまいりたいと考えています。			
【担当課回答】 《教育総務課》 学校体育館への空調設置については、大きな空間をどのように効率的に冷やすかといったことや暑い夏や寒い冬を快適に過ごせるよう冷たい空気や暖かい空気が逃げないような工夫が必要になります。鳥取市内の学校体育館には、まだ空調のついた体育館はないため、今年度は、まずモデル校1校に対して、空調の種類や設置箇所、冷たい空気や暖かい空気を留める施設の改修の方法について検討するため、体育館で快適に活動できる空調設置の計画を作っているところです。 来年度には、モデル校で検討した成果をもとに他学校体育館への空調設置について順次、取り組んでいく予定です。 《生涯学習・スポーツ課》 市民体育館には空調が整備されているため運動中も快適に過ごすことができますし、体育館内に空調はありませんが市内各B&G海洋センター、河原町総合体育館、鹿野・気高のトレーニングセンターはクールシェルター（熱中症予防休憩所、暑熱避難所）にも指定されているため運動時やそれ以外でも暑さを我慢せずにご利用できる施設となっております。 また、鳥取市武道館でも空調を整備する計画を進めているところです。 その他、鳥取市内には地区体育館をはじめ多くのスポーツ施設があります。その全てに空調や熱中症予防のための涼める場所を整備することは難しいですが、暑さが厳しい状況もあるため、ご意見として伺いたいと思います。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
17	津ノ井小学校	6年	村山 小鈴（むらやま こすず）
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	環境のいい鳥取市にしたい。		
【提案内容】			
私は環境のいいまちにすることを提案します。 私の考えは二つあります。 まず、「ポイ捨てをなくすこと」です。そのためにはポスターで呼びかけをするといいと思います。特に自動販売機の近く にポスターを貼ったりすると、飲んだ後のポイ捨てを防げると思いました。また人の目に付きやすい看板を置いたらいいと思 います。 次に「地球温暖化を防ぐこと」です。具体的には3つの取組があります。 1つ目は、『省エネ意識を高めること』です。そのためには電気を無駄使いたくないことです。 2つ目は、『ゴミを減らすこと』です。まず自分たちの使う公園から、ゴミをなくすことを始めてみたらいいと思いまし た。 最後3つ目は、『環境に優しい商品を陳列棚にまとめて置いておく』ということです。そうしたら環境にやさしい商品を選ぶ 人が多くなると思うからです。 こういった内容で、環境にいいまちづくりの方法を提案します。			
【市長回答】			
環境のいいまち、環境のいい鳥取市にしていこうということで具体的なご提案をいただきました。ポイ捨てを防止するた めにポスターで呼びかけをしたり、看板を置いたりといったことが必要ではないかということでした。それから地球温暖化を防 ぐ取り組みも必要であり、省エネに意識を向けるということでした。さらに、ゴミを減らし、また環境にやさしい商品を選ぶ ようにする取り組みについてのご提案をいただきました。 綺麗な鳥取市にしていって、また環境を守っていくということは、とても大切な取り組みであります。 皆さんもご承知かと思いますが、鳥取市では、毎年2回、春と秋に市内の各町内会に参加をいただきまして、全市一斉清掃を 行っているところです。ゴミ拾い、草刈り、また側溝等に溜まっております泥、こういったものの回収に取り組んでいただ いてますし、鳥取砂丘を中心に岩戸海岸から青谷海岸まで海沿いの一斉清掃も行っています。多くの皆様にご参加、ご協力をい ただいており、改めて感謝を申し上げます。 しかしながら、まだまだゴミのポイ捨てや不法投棄等がなくなるという状況はあります。これからも市民の皆様のご 協力をいただきながら、環境美化・環境保全の取り組みを続けていくことで、ゴミのない美しい鳥取市の実現に繋がってい くと考えております。 皆さんも感じておられると思いますが、今年の夏も非常に暑い日が続いています。鳥取市でも、気温が37度、38度を超え たり、全国的には40度を超えるような状況もあります。この暑さの原因の1つが地球温暖化によるものではないかとも言われ ており、温度が上がっていかないように、やはりみんなで環境を守っていく必要があります。これは鳥取市だけではなく、全 国また世界一緒になって取り組んでいく必要があり、みんなで取り組むことで効果が出てくるものと考えます。これは、まだ まだこれからの取り組みであるというふうに考えています。 鳥取市といたしましても、引き続き環境に関する出前授業、それから環境ワークショップなど、みんなで環境問題を考え ていくというような機会を設けていきたいと思っています。皆さんもこの環境保全、環境美化について関心を持って取り組ん でいただければと思います。			
【担当課回答】			
《生活環境課》 現在、本市は町内会など地域の皆様のご協力によりポイ捨てが多い場所に看板を設置して啓発し、その行為が犯罪であるこ とも警告しています。看板設置場所付近でのポイ捨て件数は減少していることが多いため、今後も継続して啓発したいと考 えています。 次に、地球温暖化防止についてご提案いただきました3点について、順番にお答えします。 1つ目が省エネ意識を高めること、電気を無駄使いたくないこと。一人ひとりが省エネ意識を高めて少しずつ電気を節約すべ ば大きな力となり地球温暖化の抑制に繋がると 생각합니다。今年の夏は非常に暑く、最高気温が35度を超える猛暑日が観測史上 最多となりました。また、近年の冬は除雪が追いつかないくらいの大雪となる日が多くなりました。エアコンなどをむやみに 使うのではなく、電気の使用を抑えて快適に過ごすことが大切だと考えます。そのため、鳥取市は、令和5年度から断熱性 の高い住宅の窓と玄関のドアをリフォームした方に、工事費用の一部を補助して省エネ住宅化を推進しています。 2つ目がごみの減量化と公園のごみをなくすことです。ごみの量を減らすことは、ごみ収集にかかる収集車や、ごみの焼 却、埋め立てなどの数量とエネルギーの使用量を削減できるため、この広がりも温暖化の抑制に繋がると 생각합니다。鳥取市は 「4Rの推進」によりごみの減量化に努めています。ごみの量を減らすリデュース、使える物は繰り返し使うリユース、資源と して再利用するリサイクルの3Rに加え、近年は必要のないものは断るリフューズを加えた4つのRを推進しています。また、 公園の清掃と同様に、町内会の皆様にご協力いただいて春・秋の年2回の全市一斉清掃や、海岸や側溝などのボランティア清 掃を行っていただいております。 3つ目が環境に優しい商品をまとめて配置することでした。小売店において環境に配慮した商品をまとめて配置して購入を 促すことも大切なことだと思ひます。鳥取市内でも対応されているお店がありますので、更なる広がりを期待しています。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
18	若葉台小学校 若葉台小学校 若葉台小学校	6年 6年 6年	井関愛結（いせき まゆ） 米田琴音（よねだ ことね） 西川啓太（にしかわ けいた）
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	安全で利用しやすい公園について		
【提案内容】 （井関愛結議員） 私達は安心安全でみんなが利用しやすい公園のある、まちづくりを目指しています。 （米田琴音議員） 提案内容は、ボールを使って遊ぶことができる公園が少ないので、道路にボールが飛んでいかなないようにフェンスやネットをつけて欲しいです。 （西川啓太議員） そして、遊んでいるときに小さな子にボールが当たったりすると危ないので、時間を決めて公園を使用したらいいと考えました。実際にして欲しいことは道路側にフェンスやネットをつけてほしいこと、小さい子が使う時間と大きい子が使う時間を分けてほしいです。			
【市長回答】 安心して遊べる、そのような安全な公園についてということでご提案をいただきました。これにつきましては、先ほども同じようなご提案をいただいたところでありますが、道路側の方にフェンスやネット設置をして、小さな子ども、大きい子どもと一緒に安心安全に遊べるような、そういった公園を整備してほしいというようなご提案がありました。 小さい子どもから大人までみんな一緒に安心して遊べる。楽しく過ごせる公園であることは、とても重要なことでありまして、鳥取市でも先ほど144ヶ所の公園があるということでご紹介をさせていただいたところでありますが、これからも皆さんが安心して楽しく遊んでいただけるような公園の整備をしていく、そのことはこれからも続けていきたいと考えているところです。			
【担当課回答】 ＜河川公園課＞ 住宅地の中にある小さな公園では、ボール遊びはできませんが、地域の利用者の皆さんが安心して遊べるよう、周りにフェンスを設置しています。 また、ボールで安全に遊べる十分な広さが確保できる公園や運動施設では、高さのある防球ネットなども設置しています。 これからも地域の皆さんの声を聞きながら、安心して遊べる公園づくりを目指していきます。			

令和7年度鳥取市こども未来会議 市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
19	散岐小学校 散岐小学校 散岐小学校 散岐小学校 散岐小学校	6年 6年 6年 6年 6年	聲高愛翔（こえたか まなと） 竹内瑛司（たけうち えいじ） 櫻田遼人（さくらだりょうと） 福安ベンジャミン仁（ふくやす べんじゃみん じん） 田中実緒（たなか みお）
テーマ	4. 鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	子どもから大人まで楽しく使える公園		
【提案内容】			
（竹内瑛司議員） 僕たちはみんなが楽しめる公園を作ることを提案します。そしてその公園には遊具が4つ以上欲しいです。提案の理由は、近年、コミュニケーション能力の低下や小学生の運動能力が低下傾向にあるからです。自分たちのクラスで、「放課後はどこで遊んでいるか？」というアンケートをとったところ、自分の家や友達の家など、室内が70%、外はたったの10%でした。その理由として挙げられたのが、「遊べる場所の減少」でした。このことから、僕たちが考えた安全で思い切り遊べる公園を提案したいです。 （櫻田遼人議員） この資料を見てください。これは僕たちの学校で調べた「公園で一番最初に行くのはどの遊具ですか？」という質問の資料です。この資料を見るとわかるように、ブランコがとても多いです。またその理由として、動きが大きくて面白いという意見や、一度乗ったらずっと乗っていられたといった意見がありました。またジャングルジムが2番目に多いという結果でした。ですからブランコやジャングルジムなどはなるべく入れて欲しいです。 （福安ベンジャミン仁議員） まずブランコについてです。小さな子どもたちが使ったときに怪我をしにくいように考えました。ブランコの下にはマットを敷いて落ちて怪我をしにくいようにしてほしいです。またユニバーサルデザインを取り入れて、どんな人でも利用できるような工夫もしたらいいと考えました。次にジャングルジムについてです。ジャングルジムも主にブランコと同じようにマットを敷いたり、定期的に点検することが挙げられました。また台形型にすることで頂点が低くなり、落下リスクを軽減することができ、他にも雨水で滑るリスクも減らせます。 （聲高愛翔議員） 続いてシーソーです。公園で使う遊具としてシーソーが選ばれた理由は、「動きが単純で楽しい」、「スリルがあって楽しい」などでした。また、シーソーは1人では遊べないため、コミュニケーションの向上が期待されたり、体幹やバランス感覚が鍛えられたりします。他にも、最近取り入れられている健康遊具（健康器具）を入れると、幅広い世代が来ることができる公園になると思いました。 （田中実緒議員） また普通の遊具では飽きてしまうと思ったので、飽きない工夫として複数の遊具が合わさった複合遊具があった方がいいと考えました。（参考として、）丸太渡りやネット遊具、ロープ登りなどが合わさった複合遊具などがあります。複合遊具は、いろいろな遊びができて飽きにくいと思いました。複合遊具は、子ども同士でぶつかる可能性も高いため、安全に利用できるよう、遊具に「走らないで」や「走ると危険」などの張り紙をつけるといいと思いました。			
【市長回答】			
「子どもたちがいつでも遊べる遊具がある」、そのような公園を作って欲しいというようなご提案をいただきました。それから調査結果も紹介いただきまして、一番最初に公園で行く遊具はブランコであると、2番目がジャングルジムで、シーソーも人気があるというようなこともご紹介をいただきました。ブランコについては怪我をしないようにマットを敷いたり、ユニバーサルデザインの遊具も取り入れていく必要があるというご提案いただきました。また、飽きない工夫として、複合遊具も設置をするべきではないかとこのようなご提案もいただいたところです。小学生の皆さんの身体能力、運動能力を高めていったり、コミュニケーション能力を高めていくことが必要です。公園で遊ぶということは、そういったことに非常に繋がる部分があるということで、そのために公園を整備していくということはとても重要なことです。 皆様から伺いました意見も元にして、また多くの市民の皆様の意見も伺いながら、安全で思い切り遊ぶことのできるような公園を整備していくということをこれからも具体的に検討してまいりたいと考えています。			
【担当課回答】			
≪河川公園課≫ 公園の遊具に関するご意見や調査結果について、とても参考になりました。公園の遊具は安全に使えるか定期的に調査しており、古くなったり壊れたりした遊具から順番に新しくするよう取り組んでいるところです。 今後も、公園利用者のみなさんのご意見等を参考にしながら、安全で思い切り遊ぶことのできるような公園整備を進めていくよう検討していきたいと考えます。			